

後期基本計画基本施策別一覧表

基本施策18 青少年健全育成の推進	めざす まちの姿	学校・家庭・地域・関係機関が相互に連携しながら青少年の健全育成に取り組み、豊かな人間性や社会の基本的ルール、自ら考え行動する力を身につけた青少年を育むまちをめざします。
--------------------------	---------------------	--

現状	課題	個別施策の方向性 【(★)は総合戦略に関連する取組】	主な取組	主な取組に対する具体的内容の例示
<p>◇青少年育成センターの教育相談窓口としての機能を生かし、不登校やいじめ問題などに対応し、学校・家庭・地域の連携の取組支援を行うとともに、学校サポートチームの一員として市内小中学校を定期的に訪問し、学校の抱える課題に対して助言等を行い、必要に応じて関係機関につないでいます。</p> <p>◇不登校、いじめ、体罰、児童虐待、SNSに関するトラブル等、多様化する課題や市民や学校職員からの相談に対応するとともに、スクールソーシャルワーカー、指導主事等で組織する学校サポートチームにより教育相談の質の向上を図っています。</p> <p>◇ネットパトロールの報告会を定期的 に実施し、小中学校に情報提供を行 い、青少年の問題行動の未然防止に取 り組むとともに、非行防止活動として、 中学校区育成委員会や更生保護女性 会等が連携し、校区ごとの特別巡回訪 問や定期巡回活動、市内イベントでの 巡回活動や街頭キャンペーン等を行っ ています。</p> <p>◇生涯学習を行う市民グループの活動 を支援し、学びの成果(知識や技能、経 験など)を地域で共有するため、子ども の体験活動などの指導者への就任を 働きかけています。</p>	<p>市民相互が連携した青少年健全育成 の取組を展開していくことが必要 学校・家庭・地域・関係機関の連携によ る子ども支援のネットワーク強化が必 要</p>	<p>①青少年健全育成のための 推進体制の充実 教育相談体制の充実を図 るとともに、学校・家庭・地 域が一体となり、青少年の 健全な育成を推進します。</p>	<p>①-1 青少年の問題行動の未然防止や「いじめ見逃し ゼロ」に向け、適応指導教室や相談支援体制の充実を 図ります。</p>	<p>・教職員によるソーシャルスキルトレーニング研修会や教育委員会学 校サポートチームによる巡回訪問を実施 ・教育委員会学校サポートチーム巡回訪問との連携による、適応指導 教室や青少年育成センターでの相談支援体制の充実</p>
	<p>学校・家庭・地域・関係機関の連携によ る子ども支援のネットワーク強化が必 要</p>		<p>①-2 多様な相談内容に対応するため、専門的な知識 を有する職員等の協力を得るなど、青少年に関する相 談体制の充実を図ります。</p>	<p>青少年育成センター指導員や適応指導教室指導員、学校教育課所属 の公認心理師、各中学校区に配置するスクールソーシャルワーカー等 の専門的な知識を有する職員等による相談体制を充実</p>
	<p>青少年に対する相談について、専門的 な人員の確保が必要</p>		<p>①-3 中学校区育成委員会や更生保護女性会等によ る学校・家庭・地域が連携した巡回指導等や街頭キャン ペーンなどを充実させ、地域総がかりの青少年健全 育成活動を支援します。</p>	<p>・小中学校生徒指導担当者部会やPTA、中学校区育成委員会等によ る定期巡回訪問や市内イベントでの巡回活動等を実施 ・中学校区育成委員会や更生保護女性会等が連携し、校区ごとの特 別巡回活動や定期巡回活動、市内イベントでの巡回活動や街頭キャン ペーン等を実施</p>
	<p>学校・家庭・地域・関係機関の連携によ る子ども支援のネットワーク強化が必 要</p>		<p>①-4 青少年がインターネットやSNSを通じて犯罪やト ラブル等に巻き込まれることがないよう、児童生徒及び 保護者へのメディアリテラシー(メディアからの情報を見 極める能力)教育を推進します。</p>	<p>・専門家によるネットパトロールを実施 ・児童生徒やPTAを対象とした情報モラルや情報リテラシーの研修会 を実施</p>
	<p>市民相互が連携した青少年健全育成 の取組を展開していくことが必要</p>		<p>①-5 中学校区育成委員会や更生保護女性会等によ る巡回指導や街頭キャンペーンなど、青少年の非行防 止活動の強化に向けた支援を行います。 ※①-1に統合</p>	
	<p>学校・家庭・地域・関係機関の連携によ る子ども支援のネットワーク強化が必 要</p>		<p>①-6 青少年が地域の担い手として活躍できるよう、地 域や社会との交流機会やきっかけづくりに取り組みま す。 ※②-3に統合</p>	
<p>学校・家庭・地域・関係機関の連携によ る子ども支援のネットワーク強化が必 要</p>	<p>①-5 宍粟市青少年問題協議会や青少年を守り育て る西播磨地域スクラム会議と連携し、健全育成のネット ワークのさらなる拡充を図ります。</p>	<p>宍粟市青少年問題協議会や青少年を守り育てる西播磨地域スクラム 会議と連携し、市内遊戯施設や玩具等販売店への総合立ち入り調査 を実施</p>		
<p>市民相互が連携した青少年健全育成 の取組を展開していくことが必要</p>	<p>②青少年活動の推進 地域や人とのふれあいの 中で青少年の健全な育成 が図れるよう、青少年の体 験活動や社会参加を推進 します。</p>	<p>②-1 参加者側のニーズの把握に努め、自然や文化 などを生かした多様な体験活動等の内容の充実を図り ます。</p> <p>②-2 生涯学習に取り組む市民グループ等の学びの 成果を広く地域で共有するため、子どもの体験活動等 の指導者への就任を積極的に働きかけます。</p> <p>②-3 青少年の地域に対する愛着と誇りを育むため、 まちづくりやボランティア活動等への参加を促進する とともに、地域や社会との交流機会を創出します。</p>	<p>土曜なんでも体験隊などの事業をとおして、地域の自然や文化に触れ る体験活動を実施</p> <p>市の生涯学習センターの登録団体などへ依頼し、子どもの放課後や長 期休暇などを利用した体験教室などの指導を依頼</p> <p>・地域の子どもたちとふれあう、高校生による学童支援ボランティア活 動の実施 ・放課後子ども教室や学遊館の青少年体験活動における、高校生や 大学生によるボランティア活動の実施</p>	

まちづくり指標	指標名	単位	現状値(R2実績)	目標値(R8)	数値の把握方法	目標値設定の考え方
	青少年育成委員巡回指導回数	回/年	68	現状値を維持	担当課保有の管理台帳	将来更なる学校規模適正化が進むことも予測される中で、青少年育成委員数も減少することが推測されるため、現状値を目標値として設定する。
	学校サポートチーム活動回数	回/年	100	110	担当課保有の管理台帳	組織的にも活動内容的にも充実させていく必要があるため、現状値より概ね10%増の数値を目標値とする。
	子ども講座・体験活動受講者数	人/年	518 (R1実績)	現状値を維持	担当課保有の管理台帳	急激な少子化の進行、放課後時間における多様な学習・体育活動の広まりにより、現状レベル(R1実績)の維持を目標値とする。

個別連計画	計画名	計画期間
	宍粟市社会教育振興計画	H29-R4

統計等数値